在りし日

在りし日の草のたなびく
おどけたピエロは踏み入る

在りし日の水の透きとほる
瞑想に沈む魚は目を閉じる

在りし日の空の円さよ
涼しげにふくらむスカートよ

在りし日の夜のころがって
どこへ行くのか星は瞬き

交互に足を跳ね上げて夏が逝く
無表情な笑いを保ちながら

僕は押しつぶされるで在りましょう
それは誰も知らない手紙でしょう

結局何も起きてはいないのだ

この現在(いま)という事実の他には・・・

(1988.8.25)